

福音の園だより

【第十三号 二〇〇六年 一月 七日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

Fax 049・230・1112

「あなたの笑顔が見たい！」

— 確かな援助技術に基づいて

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
運営理念や運営方針とは、ケアに迷ったときに
拠り所とする基本的な考えのことです。福音の
園・川越の運営理念は「一、心に触れる優しい支
援の実践」「二、希望への支援の実践」です。

ところで、「心に触れる優しい支援の実践」と
いうときの「優しさ」は確かな援助技術に基づい
ています。いわゆる勘や経験、熱心さなどと言っ
た主観的なものは客観性や科学性が薄れ、自己満
足の主観の世界に入り込む可能性が高いのです。

Kさん(七九才)は、帰りたいので迎えに来るよ
う電話して欲しいと事務室へおいでになる。免許
証を更新しないと無効になってしまう。屋敷をき
れいにしないといけないからというのがある理
由。「Kさん、介護保険に認定されている人は更
新してもらえないんですよ」と説明するも「いや
大丈夫、ちゃんと受け付けてくれるんです。」の
一点張り。Kさんの援助計画を模索する中で昨年
十二月初め、長女氏と外出し一時帰宅。長期入院

先からそのまま入居されたため二年ぶりの帰宅
であった。その後、お天気の良い日を選んで屋敷
回りの整備にKさんと外出すること五回。持参し
た電気チェーンソーで伸び放題になった庭木の剪
定や垣根の剪定作業を行なった。また冬柿や金柑
をもぎ取り、自然生(じねんじょう)を掘り起こし
て帰った。ようやくKさんの口から「ホーム長さ
んが言うなら免許証は諦めます」が聞けたもの
「もう農業が出来なくなる…」とポツリと言われ
た一言が寂しそうだった。張り合いを失ったKさ
んへの「希望への支援」が始まった。

年が改まり二〇〇六年を迎えました。利用者様
もスタッフも歳を重ねます。加齢に伴い認知症状
の進行が利用者様から笑顔を奪ってしまうこと
を心配しています。スタッフが一人ひとりに笑
顔を接していないと利用者様の笑顔を見つけれ
ることができないことを、ご家族様からのお便り
で気付かされました。「お便り紹介」として掲載
させていただきました。そこで、今年「あなた
の笑顔が見たい！」を合い言葉にスタッフ一同で
ケアに専心いたします。確かな援助技術に基づい
た「優しさ」と、福音に基づいた「希望」をお届
けできるように励んでまいります。

お便り紹介

長い間母が大変お世話になり有り難うござい
ました。ふと、ついこの間まで母に会いにホーム
に毎週通っていた事が、遠い昔の様なことに思え
たりする事もあります。現実には三ヶ月前だっ
たことに驚いたりするこの頃です。

在園中にたくさん撮っていたいただいた自然な姿の
母の写真を飾って、眺めるのが日課になっていま
す。この時どんな事を考えていたのかしらとか、

同じ笑顔にも違いがあるように思えて、何がそん
なに嬉しいのかしらと知りたくなるのです。多分
それは、最も母を理解して見守って下さったホー
ムのスタッフの皆様が下さった笑顔だったと思
います。母にとりまして「福音の園」のホーム長
に出会え、入居が許されてスタッフの皆様との出
会いは、娘の私も羨ましくなるほどの幸せだった
と思います。きつと、母はそのことを一番言いた
くて笑顔を見せてくれていたのだと思います。
本当に有り難うございました。(S・J)

△昨年九月逝去されたY・Kさんご家族様より▽

スタッフ紹介

日々喜びに支えられて

私が初めて認知症の方に「出会った」のは五年
前、特養ホームで働いていた時でした。その方は
不安から「誰か、誰か」と叫んでいましたが、
自分が生徒役になり、そろばんを教えていただく
と、熱心な現役時代の教師に戻っていきました。
福音の園には様々な方々がおられ、私は多様な
関係を持っています。ある方とは親子、またある
方とは兄弟、友人同士です。「母親」には「息子」、
「妹」には「兄」、「友達」には「友達」として
振舞います。私は一人ひとりの方との「響き合わ
せ」(心の波長合わせ)に喜びを感じています。
そのような関係の中で、内にあるものを引き出し、
発揮していただく。そして少しでもその方らしく
生活できるよう支援する。

その実現のために日々「仕事をして」います。
今後は、正職員としてより一層努力し、少しでも
一人ひとりの方が生き生きと生活する時間を増
やしていきたいです。(二階・K・N)